2026年５月15日

各　位

会社名　株式会社みのや
代表者名　代表取締役社長　正木　宏和
（コード番号：386A　東証スタンダード）
問合せ先　取締役　佐々木　康宏
（TEL 048-816-4550）

2026年６月期第３四半期決算において高い関心が予想される事項

日頃より、当社に関心をお寄せいただきありがとうございます。2026年５月15日に発表の2026年６月期第３四半期の決算内容において高い関心が予想される事項について以下のとおり開示いたします。

Ｑ１：2026年６月期第３四半期の売上高は前年同期比＋7.4%、営業利益は同＋7.2%、特に営業利益が上期から大幅に改善されている理由について

Ａ１：売上高は、店舗数の増加に加え、客単価の上昇により、前年同期比で増収となりました。営業利益は、2026年６月期上期に新規出店（12店舗）が集中したことによって出店関連コストが先行して発生しましたが、第３四半期は新規出店が３店舗にとどまり、コスト負担が軽減したことから改善しております。
一方で、人件費や地代家賃の上昇、キャッシュレス決済比率の拡大に伴う支払手数料の増加等により、営業利益率は前年同期並みの2.6%で推移しております。今後も店舗出店を計画的に進めながら、コストコントロールの強化を行い、収益性のさらなる改善に取り組んでまいります。

Ｑ２：経常利益段階まで前年同期比増加となっている一方で、四半期純利益段階で前年同期比減少となっている理由について

Ａ２：不採算店舗の減損損失104百万円を計上したことに加え、資本増資に伴う法人税増により前年同期比減となりました。店舗の減損損失については、天候不良や近隣競合店による影響を受けたこと等により、減損損失を計上しております。

Ｑ３：通期業績予想に対しての進捗について

Ａ３：2026年６月期の通期業績予想は、売上高前期比＋9.7%の26,356百万円、営業利益前期比＋15.9%の786百万円、経常利益前期比＋11.1%の849百万円、当期純利益前期比＋18.4%の479百万円を見込んでおります。通期業績予想に対する第３四半期時点の進捗率は、売上高72.9%、営業利益64.1%、経常利益65.1%、当期純利益43.7%となっております。売上高については、特に路面店における天候不良による影響や、近隣競

合との競争激化による外的要因により、予算比 97.7%で推移しております。利益面においては、全社的なコスト削減を図り、販売費及び一般管理費は当初予算内に抑制したものの、売上高の未達をカバーできず営業利益は予算比 88.8%にて軟調傾向で推移しております。また、第４四半期の出店計画は１店舗につき、出店関連コストの発生が抑制されるとともに、上期に出店した店舗の売上寄与が見込める局面となります。これにより、収益性の改善を見込んでおります。加えて、スケールメリットを活かした仕入効率の向上、スポット商品の仕入強化、店舗オペレーションの効率化に努め、利益の積み上げを図ってまいります。

Ｑ４：新規出店と退店の状況及び今後の方針について

Ａ４：2026 年６月期第３四半期末時点において、新規出店 15 店舗、退店店舗数４店舗で進捗しております。また、当社は成長戦略として、毎期純増 10 店舗を掲げており、駅前立地の視認性を活かした路面店と、天候に左右されない強みを活かした商業施設内への出店を並行しながら、中長期的に着実な成長を目指しております。また、積極的な出店を続けるとともに、採算の取れない店舗の見直しも進めており、収益力の底上げを図っております。2027 年６月期以降についても、展開エリアは関東圏を中心に、中京・関西圏にも継続的な出店を強化してまいります。

Ｑ５：中東情勢による当社への影響について

Ａ５：当社の菓子小売事業における事業活動及び業績に関しては、現在の中東地域における地政学的動向を踏まえても、直接的又は間接的な重要な影響は生じておりません。今後の情勢の変化については、引き続き注視してまいりますが、現時点においては、当社の事業運営、サプライチェーン、並びに財務状況等に与える影響は軽微であると認識しております。

以上

当社 HP の IR サイトでは、株主・投資家の皆様へ積極的に情報を発信しております。
ぜひご覧ください。

https://www.machioka.co.jp/ir/